

授業時

心を入れて答案や作品を扱う

L教諭が中学3年生の1学期の期末考査の答案を返しています。

L教諭：「期末テストの答案を返します。このクラスはいつも活発な割に、今回の成績はあまり振るわなかったね。みんなのエネルギーを、もっと勉強にぶつけてもらいたいな。」

L教諭：「Mさん…惜しかったね。最後の計算ミスが命取りになったな。今度は慎重にいこうね。」

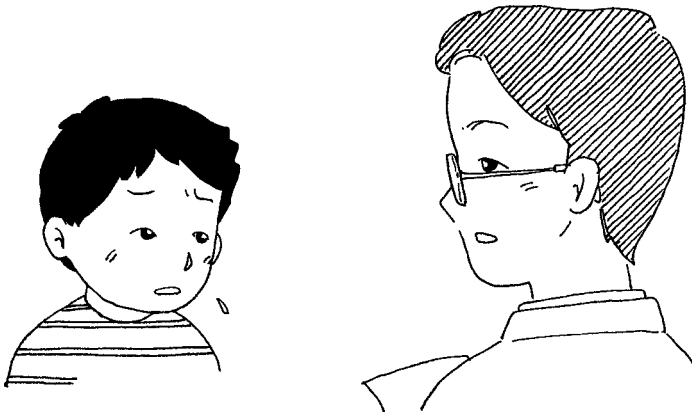
Mさん：「はい、悔しいな。」

L教諭：「Nさん…今回はずいぶん勉強したんだね。これからが楽しみだなあ。」

Nさん：「まあ、少しは…ありがとうございます。」

L教諭：「Oさん…どうしたんだい。2学期もっと頑張らないと第1志望は難しいぞ。」

Oさん：「…」



誰でも答案を返されるときは、期待や不安の入り混じった緊張感があり、教師のささいな言動にもかなり神経質になっています。「できればそっと返してほしい。」と思っている子供もいるでしょう。

答案の返却……公平に、秘密を守って

調査結果から、答案返却の際に「成績順に返された。」「点数を公表された。」などを、嫌な思い出としている子供がかなり多いことがわかりました。教師にはそれなりの意図があつての言動かと思いますが、返却に当たっては、コメントは本人だけにそっと伝えたり添え書きをするなどの工夫をして、子供の気持ちを汲んだ繊細な配慮がほしいものです。

事例のOさんの場合も、教師の意図が伝わらず、嫌な思いが先に立って、かえって学習意欲をなくしかねません。

作品の扱い……細心の注意を払って、大切に

答案に限らず、子供のノートや作品を丁寧に扱うことは大切です。「文化祭に展示した焼き物の作品が、返されたとき壊されていた。」と憤慨していた子供、「先生から返された作文に、コーヒーの染みがついて不愉快だった。」と言う子供など、教師の不注意な取扱いに、嫌な思いをさせられた子供の話を聞くことがあります。子供のかけがえのない作品を、細心の注意を払って大切に扱いたいものです。

また、一人一人の「光るもの」を見つけて、「この色彩がいいですね。」「よく調べて、立派なレポートになったね。」などと一つ一つ書き添えると、子供は一層やる気を起こします。

感想文や作品などを授業で公開する場合は、事前に伝える、本人の承諾を得るなどの配慮も大切です。